

郷土を知る
むかしむかし
昔々の
そお市

第38回



戦火迫る！
そのとき月野村は？

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

明

治10年（1877）に起こった西南戦争では、西郷隆盛を中心とした西郷軍と政府軍との間で激しい戦いが繰り広げられました。一時は熊本県北部まで進軍していた西郷軍ですが、戦局の悪化とともに戦場は鹿児島・宮崎に移り、要衝^{※1}の都城に近い曾於市も戦場となりました。

市指定文化財「月野村非常日誌」^{※2}（大隅郷土館展示）は、月野村事務取扱所^{※2}が西南戦争の最中、明治10年5月5日から約3カ月間を記録した書物です。

日誌の最初は、負傷兵の移送のための駕籠や馬の調達など西郷軍からの依頼が続きます。その後、5月下旬頃から食糧運搬用の馬や病院への食料（鶏卵や梅干し、牛蒡など）の調達、さらに地元民へ出兵依頼があったことが記録され、戦況の厳しさをうかがわせます。

7月4日から29日までの間、突如記録が途絶えます。ちょうどこの頃、都城にいた西郷軍を政府軍が攻撃しており月野村を含む曾於市一帯が戦場となった時期と一致します。この間、戦禍を逃れるために人々は山に潜っていたようです。

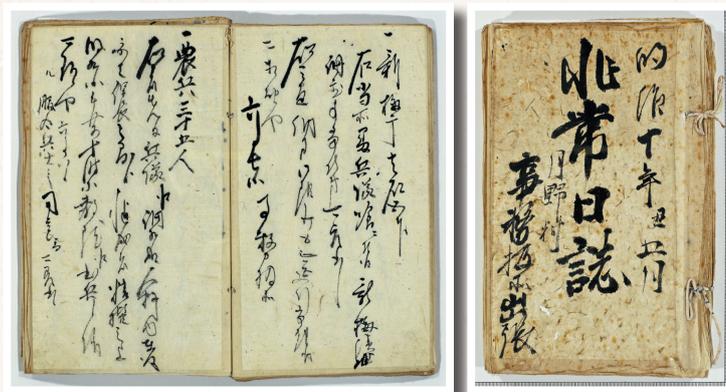
7月30日から再び記録が始まり、今度は政府軍から夫役^{※3}を求められたことが記録されています。都城の陥落により西郷軍が去り、政府軍が当地一帯を掌握したことがうかがえます。8月11日には「人馬残らず差し出し候様」と記録されており、たいへん厳しい要求を受けていたようです。

「月野村非常日誌」は、月野村の人々が戦禍に巻き込まれていく様子と、戦争の大勢の移り変わりがうかがえるたいへん貴重な記録といえます。ぜひ、リアリティに満ちた当時の日誌をご覧ください。

※1 要衝……交通面・軍事面などで大切な地点。
※2 事務取扱所……現在の役場のような機関。
※3 夫役……強制的に課せられる労役のこと。

【アクセス】

実物は、大隅郷土館に展示
曾於市大隅町中之内9146番地



『月野村非常日誌』

